

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあさひ
(ユニット名)	ひめさゆり
所在地 (県・市町村名)	山形県西村山郡朝日町
記入者名 (管理者)	鈴木 裕子
記入日	平成 19年 11月 1日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、一人ひとりが意識しながら理念に基づいたサービス提供できるように取り組んでいきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	スタッフ休憩室にも掲示し確認できるようにしていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	今後も地域に積極的に出向き、地域住民の方々と交流し理念に基づいた取り組みを理解してもらえよう働きかけていく必要がある。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	○	顔なじみの関係になりつつあるが、気軽に立ち寄ってもらえようなつき合いは出来ていない。訪問しやすい雰囲気作りをしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地区の行事の案内や、お誘いがあるので業務優先にならず積極的に参加したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献を視野に入れた取り組みは、ほとんどなされていない。研修の受け入れは積極的に行っている。	○	毎年、いも煮会を実施しているが、利用者家族だけではなく、地域のお年寄りの方も参加してもらえるように取り組んでいきたい。町内でただ1つのグループホームとして地域の様々研修、会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めていくことが今後の課題。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、確認した上で取り組んでいる。また、前回外部評価では結果をふまえ、ユニットで改善に向けて話し合い、サービスの向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、入居者家族代表、地区区長、行政、民生委員協議会会長から意見をいただきサービス向上に活かしている。会議では事業所での取り組みなどの報告を行うと共に、前回会議で頂いた意見をどう反映したかも報告している。	○	忌憚ない意見が出るような雰囲気作りを行い、打てば響く事業所を目指していきたい。次回の運営推進会議では外部評価の報告ができればと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者から地区情報を頂いたり、事業所の活動などを随時報告し理解してもらえるように取り組んでいる。事業所の実情も伝えたり、問題を事業所だけで抱え込まず相談するようにしている。	○	今後も積極的に関わりをもち、市町村と共に問題解決を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を利用している入居者がおり、生活支援員の方々とお話ししたり相談しているが、制度の内容まで全スタッフが理解しているとは言い難い。	○	研修等の機会があれば参加し、全スタッフが学ぶ機会を作っていき、必要な支援をしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加した職員が伝達講習を行い、スタッフが学ぶ機会を作っている。	○	ミーティングなどで職員に確認したり、カンファレンスを通じて、そのような事がないように注意を払う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に利用者の立場に立ち、十分な時間を取って説明している。解約の際にも、利用者の環境、状態変化に応じて行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の行動や言葉などから、思いを察知しスタッフ間でミニカンファレンスを度々行ったり、ユニット会議などで話し合いの場を設けたりなどして運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>利用者一人ひとりの小さな心のサインに気づく眼を養い、意見、不満、苦情をそのまま放っておかないようにしていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月一ヶ月のご様子を便りで報告している。また、心身及び環境の変化や金銭面での相談などの際はその都度、きめ細かく家族等に報告している。</p>	<p>○</p> <p>伝える内容においても、家族の負担にならない様、言葉遣いや伝えるタイミングに留意していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や苦情を気軽に言って頂けるように、常に家族と密に連絡を取り合っている。又、家族懇親会を開催し、意見を出し合える場を作り、運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>家族から出された貴重な意見を、ユニット会議などで議題にし、良い運営に繋がるよう努力していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関する意見、要望及び提案をする為の機会がない。</p>	<p>○</p> <p>要望や意見は伝えやすいが、不満や苦情は伝えにくい面があるので、定期的に運営者や管理者と個別面談などを行って、現場の意見を聴き、活かしていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の多様な生活リズムに対応した柔軟なシフト表を組んでいる。また、各イベントなどにおいては、職員の配置を考え、無理なくサービスを提供している。</p>	<p>○</p> <p>職員の急病や急な休みの際は、迅速に対応している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット間での職員転属(年一回)施設内研修(不定期だが一回の期間は三ヶ月)を行い、利用者との馴染みの関係を築いており利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講演会には、社員に限らずパートでも受講できるような多くの機会を与えてもらっている。また、ユニット会議等で、その内容を発表したり、報告書を全員が閲覧できる所に置いている。	○	段階に応じての様々な研修によって、職員全体のレベルアップにつながる為、これからも出来る限り参加していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの交換学習の機会などで、サービスのあり方 及び実践的な交流を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が気分転換できる休憩室がある。	○	職員一人ひとりのストレスや悩みは多様であると思うが、相談があった場合には臨機応変に対応し、その内容を把握してもらえそうな工夫作りをしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は定期的に訪れるが、利用者に関わる時間が少なく職員の悩みや迷いをどこまで把握しているか疑問である。職員の資格取得に向けた支援を行っている。		職員の努力や実績が運営者に伝わるように努力しているつもりだが、今後も運営者と検討していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の思い・家族の思いを受け止めるような姿勢を示している。ケアプランにも反映させている。入所後は効果的なコミュニケーションを取り、入所者から気持ちを引き出す努力をしている。	○	不安なこと、求めていることを引き出すにはさらなるスキルアップの必要を感じる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労やこれからの不安などをゆっくりと聴き受け止めるようにしている。相談しやすい関係を築くように努力している。	○	今後も努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に合ったサービスが利用できるように必要に応じて他のサービスを紹介している。	○	気軽に何でも話していただけるような、本人、家族との関係作りを継続していきたい。
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	1対1でじっくり話しをすることが少ない。話しを聴いて欲しい利用者も、スタッフの動きを見て遠慮しがちになり、声を掛けにくい状態になっている。家事や風習など入居者から学ぶ事も多い。分かっているつもりでも質問し、教わったふうになっている。職員に余裕がなくなると、一方的になりがちで、垣根が高くなる傾向にある。	○	時間に追われるような雰囲気をみせず、話しを掛けられる余裕を見せていきたい。心のケアが出来る様心がけ、じっくりと耳を傾けて話しを聴き、少しでも利用者の不安、不満、ストレスを改善出来るようにしたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の状況を報告し、本人の思いに添った支援が出来るよう、家族との連携を密にし、共に支えていく関係作りを努めている。	○	面会が少ない家族との密な関係が築きにくく、本人の思いもなかなか伝わりにくい所がある。時には、職員が利用者の代弁者となり、思いを分かち合い、共に支援していく関係作りをしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係を把握した上で、日頃の本人の生活状況を定期的に家族に伝えている。毎年、家族を招待しての芋煮会を開催し、家族交流の場を設け、楽しい一時を過ごして頂けるよう支援している。	○	家族の方の参加率が、半分くらいである。もっと参加しやすい雰囲気や工夫が必要である。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や店など、可能な限り、関係が途切れないよう、こちらから足を運んだり、ホームに来てもらったりしている。		利用者一人ひとりの馴染みの人や場のアセスメントがさらに必要。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性などを見極め、気の合う方との交流の場を作ったり、孤立しがちな方へは職員が間に入り他者との交流の橋渡しの役目をしている。	○	集団生活の中で衝突が起きないように目配りをし、一人一人楽しく生活出来るよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて相談援助を行っている。又、気軽に来所出来るように家族や本人に声を掛け、継続的付き合いが出来るような良い関係づくりをしている。	○	行事に招待したり、他の事業所(施設)へ移られた利用者の所へ遊びに行くということがあまり出来ていない。関係を断ち切らず、継続的に付き合いを持てる良い関係作りをしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が会いたい人、行きたい場所を聞き入れ、思いに添った支援をし、少しでも満足して頂けるようにしている。困難な場合、施設の中で楽しめる事、外出を考え、気分転換を図っている。	○	なかなか本人の意向に添ってのケアが出来ていない。本人の要望、希望を受け入れて支援出来るように努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を利用者やその家族に聴き把握に努め、サービス提供の際の参考にさせてもらっている。又、日々の記録を皆が共有するよう記録を読む。職員に情報収集と職員での共有することの重要性を伝え、情報把握に努めている。	○	馴染みの物を生活の中に取り入れ、今まで生活に近い環境を作り出したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	まめな記録と申し送りにて、一人ひとりの現状を把握するよう努めている。心身状態が特に気に掛かる方には、職員が関わりを多く持ち、経過を見るようにしている。	○	身体状態を見極め、安心して生活出来るような支援方法を見つけてケアにあたりたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行いケアプランの見直しを行っている。利用者、家族の意見・要望を聴き取りプランに生かすよう心掛けている。必要に応じて主治医、行政、関係者とも話し合い、プラン作成にあたっている。		時間がなかなか取れず、プチカンファレンスを頻繁に開いている状況。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた時は、速やかにカンファレンスを開き介護計画の見直しを図っている。場合によっては、家族と話し合いの場を設け作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫を記録に記入できていない。統一したケアができていない。今後の課題。	○	一日の様子、処遇結果をケース記録に明記し、皆が情報を共有し、実践しながら、介護計画の見直し時に活かせるようにしていく必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	民生委員や紙芝居読み聞かせの方が来てくれたり小学校との交流を持っている。避難訓練時は消防署職員を派遣してもらい、アドバイス受けている。		外部へ出向く活動交流が少なく、地域活動への参加、密着に欠けている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じてケアマネジャーに報告したり、行政と話し合いをしている。本人にとってよりよい支援ができるよう活動している。	○	今後も地域のケアマネジャー、行政との連携は必要。その人にとっての関係が途切れないように、支援していきたい。地域資源の情報収集がまだ不十分。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要な方へ金銭管理をしていただき定期的な訪問もしている。また、運営推進会議の委員も委嘱し、定期的なケアマネジメントについて、ご意見いただいている。		今後も必要とする方には相談しながら有効に使ってほしい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常生じたときは速やかに主治医の指示を受けている。本人及び家族の希望の医療機関を定期的に受診している。		受診は基本的には家族に同行を依頼している。日常の様子、体調の変化など主治医に伝わるよう連絡表を使用している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	それぞれの症状に合わせ必要な専門医の受診を支援している。	○	家族から認知症に対する理解を深めてもらい専門医の受診の必要性を伝えていく必要があるケースもある。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤看護職員の他、登録看護師と契約しているので週一回程度の割合で訪問し、健康状態など確認しアドバイスしてもらっている。24時間相談できるような体制をとっている。		気になることがあれば、相談し、対処している。これからも相談し早期発見や対応に努めていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師や看護師に現状を確認している。入院中及び退院時のムンテラには親族と共に参加している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況が変わった時、親族を呼んで、現状を説明し、一緒に方針を決めている。本人、主治医、看護師、家族の意向をプランにまとめ支援している。		家族や主治医と話し合い、本人、または家族の意向を出来る限り尊重しケアにあたっている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、医師と連携し重度化や終末期に向けた話し合いしながら支援しているが、職員の知識、技術共にまだまだ不足している。	○	職員も研修や学習会などで知識、技術を上げていく必要がある。看取りに関する指針を取り決めている。今後本人、家族の状況に応じて対応できるよう取り組みたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移住の際は、本人の情報を詳しく伝えるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の時はなるべく周りの人に気付かれないよう耳元で声掛けしている。他の家族や友人に対し個人情報を話さないよう気を付けている。	○ 会議やミーティングの時に職員の意識向上を図ると共に日々の関わりを職員同士アドバイスし利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を試みているし、今後も必要と考えている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者に合わせて声掛けし職員共々選択を提案しながら支援している。外出の希望が強い時は出来る限り叶えられるよう、すぐに行けない時は時間をずらして対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが時間を区切った過ごし方はしていない。その時の本人の気持ちを尊重し支援を行っている。本人の状態や思いに配慮しながら、柔軟に対応している。自分からトイレを訴えたり尿意が曖昧な方の支援ができていない。	○ 一日に何度も外出を望む入居者もあり、職員と相談しながら対応している。排泄ケアが今後の課題。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは本人の意向で自由にしている。理容、美容は希望を聞き本人の行きつけの店に行くようにし、お店の方とも連携を取っている。	○ 整容が不十分な方には職員が支援している。朝の整容(男性利用者の髭そり・洗顔など)にもう少し関わられるよう時間を作っていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りは難しいところがあるが、一緒に買い物に行き選んでもらったり、食事の準備や後片づけが日課になり進んで参加してくれる方が増えた。なるべく皆が参加してくれるよう出来る事を見極めて支援している。	○ 利用者が好みの飲み物が飲めるよう喫茶コーナーを設けて楽しんでもらえるような取り組みをしていきたい。献立は皆の希望が叶えられるよう日替わりで聞くなど工夫していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	誕生日会やお楽しみ会等は、お酒、飲み物、おやつ等一人ひとりの好みを把握し出来る限り叶えられるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し記録に記入すると共に、トイレの声掛け誘導のタイミングを探りながら失禁が軽減出来るよう支援している。出来ている職員とできていない職員がおり、統一したケアができていないと言いがたい。	○	今後の課題。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	高齢の方や体力の低下しているかたが多く、ほぼ一日おきに希望や体調を考慮しながら気分良く入浴できるよう支援している。	○	体調を確認しながら、希望者には毎日入浴できるようにしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体力に合わせて個々に合った休息を促している。又日中の活動量を増やし、適度な疲労感を持ってもらい夜の安眠に繋がるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な事を把握し、活かせる場を作っている。様々なレクリエーションも行っているが、どうしても集団ケアになりがちである。	○	生活歴を知り、潜在能力を生かし少しでも発揮出来る様支援していきたい。個々にあった気晴らしの支援を考えていきたい。意識してそういった時間を作っていく必要もある。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している利用者は少ない。ほとんどが職員が管理し必要時に職員が支払っている。	○	お金を持たないことで買い物に同行しても欲しい物を遠慮しがちである。自分のお金で好きな物を買える満足感や安心感をもってもらえるようさりげなく財布を渡して支払ってもらったり、能力に応じた支援が必要。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物や散歩等、室内にこもる事のないよう日常的に外出を促し出掛ける支援を行っている。自力外出困難な方でも体調や希望に合わせて外出の支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望を聞きながら普段は行けない様な遠出の外出を支援している。自宅へも家族と連携取りながら帰宅の援助を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りや、利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるような環境作りを行っている。	○	なかなか自ら申し出ない利用者もいるので、そういった場合は、職員から声掛けをしたりすすめたりして、もっと電話や手紙を出す機会を増やしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族も親の家を訪れるような、気軽で来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間などは定めておらず、都合のいい時間にいつでも訪ねて来ていただける環境にしている。	○	家族はもちろん、知人や友人の方々もが居心地よくいられるような努力をしなければならないと思う。来なくなるような家族支援を行っていく必要がある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送りなどでケアを振り返り、自覚していない身体拘束が行われていないかなどを点検している。		気づいた時点で、職員同士で声掛け等を行う。もっと高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強をする機会をつくっていく必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子であれば、さりげなく声を掛けたり、一緒についていくなどをし、鍵をかけずに自由な暮らしが出来るよう支援している。	○	一方的にこちらの都合で止めたりせずに、まずは利用者が外に出たくなる場面や理由、行き先などを把握する。本人の思いや身体の色を活かしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で作業しながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は数時間ごとに利用者の様子を確認し、安全に配慮している。食事の準備の時間に所在の確認がおろそかになりがちである。	○	何かに集中していると全員の状況が把握できていない時があるので、意識して全体を見渡すようにしたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・金銭は施設で管理しているが、髭剃り、小遣い程度の金銭、ポリデント、歯磨き粉など、一人ひとりの希望に応じて個人管理している。ふつうの生活空間でふつうの暮らしができるように居室に限らず様々な日用品を置いている。殺風景な空間にならないよう配慮している。		ハイターなどは入居者の目に付かないところに置いている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々ヒヤリハットを記録し、職員の共有確認を図っている。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因を分析し、今後の予防対策を検討している。	○	事故報告書やヒヤリハット報告書を職員全員がきちんと目を通し、同じ事を繰り返さないようにしなければならない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時には、すぐ医療機関と連携がとれるようにしている。	○	職員全員が事故発生時の対応に不安があるようである。焦らず対応できるように定期的に勉強会などを行っていく必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。職員は、避難経路の確認、消化器の使い方などの訓練を消防署の協力を経て行っている。	○	職員一人ひとりが避難する時のマニュアルを把握できていない。訓練の機会を増やしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や外出によりリスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、行動の障害を少なくしていることを家族に具体的に説明している。	○	家族や地域の方の理解が必要なので、抑圧感のない暮らしが出来るように話をしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた場合はバイタル測定を行い、変化時の記録をつけている。状況により医師の受診につなげている。	○	変化があると気が付くためには、利用者の普段の様子をきちんと把握することが大事。普段から観察行うようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。		利用者が薬をきちんと飲み込んだのを確認し、服用徹底している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。散歩や家事活動などで身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便ができるよう取り組んでいる。	○	個人によって下剤を飲んでいる方もいるが、便の出具合によって調整している。食後のトイレ誘導を日課にしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きの声掛けを行い、能力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。また、定期的に義歯の洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の物を多く取り入れ個々に合った食べる量を食べやすい形態で提供している。個々の嗜好を探り、好みのもので水分補給している。摂取量を記録し一日の食事・水分摂取量の把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	安全委員会を月1回実施し、感染症に関する知識や対応のマニュアルを作成し職員全員に周知している。又、日頃より手洗い、うがいを呼びかけ感染予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日調理器具をハイター除菌。ふきんは毎食後ハイター除菌し洗った清潔な物を使用している。冷蔵庫は週に1回掃除をし食材のストックはなるべくせず使い切るようにしている。調理前後の手洗いの徹底。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の門扉は開けて開放的である。玄関周りに花を置き、いつでも気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気づくりに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は障子戸にて光の調整を行っている。、職員が花を持ち寄ったり、近所の方より頂いたりし季節の花々を楽しんでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いて一休みしながら、利用者同士の話の場となっている。テレビの前の畳スペースにソファを置き、ゆっくり鑑賞出来る空間がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらうよう話をし、各入居者が自分の時間をゆっくり過ごせるような空間作りを心掛けている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に空気清浄器を完備し、掃除の時には窓を開けて換気している。温度調節は温度湿度計を設置し、1日3回の温度湿度チェックし、調整している。居室は個々の状況に合わせてエアコンの温度調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りで、廊下、トイレ、浴室に手すりがあり、安全な移動が出来る。障害物に気を配り、危険がないか目配りしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各々のわかる力を見極め、発揮出来る場を提供している。わからない部分については自尊心を傷つけぬよう何気なく介助、支援し、少しでも自立した生活に近づけるようにしている。	○	身体機能が自立している利用者への関わりがどうしても多くなり、意思表示が少ない方や車いすの方の力を引き出す関わりが少なくなってしまう。少しでも力を引き出して行けるよう支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に畑や草花があり天気の良い日は一緒に畑仕事をしたり、花の水掛など行っている。出来ない方でも外へ出て畑のアドバイスをしてくれたりと気分転換の場になっている。小学生と一緒に野菜や花植えをし交流の場ともなっている。	○	玄関前にベンチを置き、お茶を飲めるような空間作りを検討中。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

笑顔を大切にゆっくり過ごせるよう職員皆が心掛けている。入居者との会話を通して食べたい物や行きたい所の希望を探り、可能な限り取り入れられるよう努めている。